

栗源介護研修センターの『介護職員初任者研修』の特徴

<介護職員初任者研修とは>

介護職員初任者研修(旧ホームヘルパー2級)とは、介護に関する基礎的な知識・技術を学ぶ研修で、これから介護の勉強をしたい方やこれから介護の仕事をする方にとってつけの、実践的な資格です。

福祉や介護に関心はあるけどどういうものかわからない、福祉施設やサービス事業所で働きたい・働いているけどちゃんと勉強したい、これから介護をする方、すでに介護をされている方、どなたでも受講可能です。どの年齢の方でも参加 OK ですが、テキストの読解能力の関係で小学校高学年からの参加をお勧め致します。

<理念>

「地域に福祉の心の種をまきたい。」

「本当の意味で喜びのあるお世話を伝えたい。」

「他人(ひと)の幸せが、自分の幸せになる。」

<実績>

- ・介護職員初任者研修の前身である訪問介護員2級・3級課程養成研修(通称「ホームヘルパー2級(3級)」)を平成11(1999)年から実施しています。
- ・交通の便が悪い立地でありながら、香取市を中心に、成田市・東庄町・旭市・多古町・神崎町・匝瑳市、茨城県稲敷市・神栖市ほかから約1100人の修了生を輩出してきました。
- ・令和5(2023)年度から通学制から一部通信制に変更することにより、研修会場に足を運んでいただく日数を大幅に減らし、より参加しやすい研修体制になりました。

<研修の体制>

- ・残念ながら介護職員は全産業と比較すると低賃金です。それでも介護職員になりたい方がいらっしゃるということは、給料とは別の理由で、やりがいがある魅力的な仕事だと思ってくださっているからだと思います。そのような方の背中を押す意味もあって、なるべく受講料を抑えつつ、研修の質は上げる工夫をしています。令和8(2026)年度から、物価上昇と研修担当者の負担軽減(これまでは受講料を抑えるために研修担当者に負担が集中していた)のために、受講料をなくなく上げました。それでも、相場より安いと思います。
- ・参集学習(スクーリング)の日数は、過去の研修生の声を参考にしなるべく少なく設定しています。最近、仕事の休みを利用されながら研修を受ける方が増えていますので、1日みっちり研修に参加していただいて研修日数を減らすようにしています。
- ・当センターは少ない参加人数でもなるべく開催するようにしています。例えば、ほかの研修機

関ですと「一定の参加人数が集まらないと研修を実施しない」ということがあります。これは、研修を申し込んだ方にとっては大変がっかりさせてしまうことだと考えています。また、当センターは母体が社会福祉法人で利益を求めない性質があることから、少ない人数でも実施するように努めています。

- ・スクーリングは、栗源デイサービスセンターや特別養護老人ホーム季美の森(デイサービススペース)の定休日である土日に実施するため、研修生にとっては仕事や学業が休みの日に受講できます。

<研修内容>

- ・研修前半の自宅学習は、介護の知識を習得することに重きを置いています。問題集とテキストを使って、ひたすら知識習得に取り組んでいただきます。問題集は、現場で使われる頻度が高いものを取捨選択して、なるべく問題数を少なくしています。
- ・問題集とテキストだけでは知識優先になりがちで、現場で必要とされる“介護(福祉)の心”の学びにはなりにくい性質があります。そのため当センターでは問題集のほかに、『レポート課題』を実施しています。『レポート課題』に取り組むことで、ご自身の心を感じて、他人(ひと)との接し方を考えるきっかけにしています。
- ・研修後半のスクーリングは、介護技術を習得するために演習中心です。なかには、汗をかく科目や、ケガの予防のため体操をしてから実施する科目もあります。できるだけ“講師の話聞くだけの座学”は排除していて、特に重要なキーワード以外は、自宅学習と内容が重なってしまう二番煎じ講義を厳しくチェックして退屈な研修を避ける分、重要なことを教える時間に充てるように努めています。
- ・実習を必修にしています。現在、国や県が定めるルールでは実習をやらなくても、実習分の学習を別にすれば修了できる仕組みになっていますが、当センターは現場で体験することを重視しています。テキストに書かれていることや講師が話していることも学習になりますが、“習うより慣れろ”という言葉のとおり、介護は実際の現場に触れてこそ学習の質が高まります。実習をしないで研修を修了した場合、いきなり現場で働くことになり、大変な不安が生じると思います。また、実習をとおして自分が介護に向いているかどうかを判断できるきっかけにもなります。さらに、特に高校生などの学生にとっては、そもそもお年寄りと触れ合う機会が少ないため、お年寄りに触れる体験は人生にとって重要な体験になると思います。
- ・講師陣は、今も現場で活躍しているベテランの介護職員で、日本福祉大学大学院を修了した者、千葉県福祉分野では有力な淑徳大学を卒業した者、介護職員として千葉県知事から表彰された者、香取周辺地域で活躍している作業療法士、現役の医師までいて、かなりレベルが高く、実力確かな方々が講師をしています。過去に、大学の先生などに講師を依頼したこともありましたが、かんばしい研修にならなかったという紆余曲折の経験により、現在の講師がベストであると自負しています。
- ・介護職員同士の人間関係に代表される「お局様」などの存在は、テキストには書かれていませ

んが介護現場では大変な影響力があります。そのような介護現場のリアルを伝えられるのも、現場の介護職員ならではのだと思います。

- ・認知症の科目では、VRゴーグルを装着してバーチャルリアリティーのなかで認知症の方の感覚を体験する最先端の教材を導入しています。また、福祉用具の科目では、なるべく多くの福祉用具を用意して、福祉用具の魅力を伝える研修を行っています。
- ・過去の修了生から話を聞くと「研修でなにをやったかは忘れちゃったけど、あのときに会った人とは今でも連絡を取り合ってたまにお茶してます。」とおっしゃることが多いです。この研修の醍醐味はそこだと思います。研修で知り合った仲間と研修が終わった後も連絡を取り合って、仕事の話、家族の話、健康の話をしてお互いに支え合うことが大切だと思っていますので、当センターは“仲間づくり”を意識して研修を工夫しています。

(令和8年3月)